

船舶事故調査報告書

平成23年9月15日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行

事故種類	沈没
発生日時	平成22年7月8日（木） 11時05分ごろ
発生場所	神奈川県藤沢市江ノ島南南東方沖 江ノ島灯台から真方位203° 10.5海里付近 (概位 北緯35°08′ 東経139°24′)
事故調査の経過	平成22年7月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	モーターボート ^{ハニーマイシックス} HONEY MAY VI、9.7トン 292-38192 静岡、個人 10.02m (Lr) × 3.82m × 1.89m、FRP ディーゼル機関2基、176kW（合計）、平成15年5月
乗組員等に関する情報	船長 男性 58歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成3年2月28日 免許証交付日 平成17年5月26日 (平成23年2月27日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	<p>本船は、船長ほか3人が乗船し、江ノ島南南東沖を三浦半島南端に向けて東進中、平成22年7月8日10時10分ごろ、主機の回転数が徐々に低下した。</p> <p>船長は、フライングブリッジの主機の計器盤で水温及び潤滑油圧力に異常がないことを確認し、主機のクラッチを中立にしたのち、機関室の確認のためにフライングブリッジからキャビンへ赴き、キャビン後部入口ドアを開いたところ、キャビンが黒煙で充満しているのを認めた。</p> <p>船長は、バックドラフト（閉塞された箇所での火災が発生して加熱した一酸化炭素が発生したところに、ドア等が開放されて急激に酸素が供給された際、一酸化炭素が爆発的燃焼を起こす現象）を恐れてキャビン内の機関室出入口蓋を開けずに船首側の操舵室で主機を停止したのち、後部甲板上に出たところ、ビルジポンプが自動運転して機関室内のビルジを船外に排出していること、及び船体の喫水が増え始めているのを認め、本船が浸水していることに気付いた。</p> <p>船長は、ボートレスキューサービスに電話をして相談し、10時37分ごろ118番に通報するとともに、同乗者に救命胴衣を着用さ</p>

	<p>せ、フェンダー4個をつないで浮きとした。</p> <p>本船は、11時05分ごろ沈没し、船長ら4人は、漂流しているところを海上保安庁から要請を受けた水上警察の警備艇によって救助された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴、風向 南、風力 2</p> <p>海象：波高 約0.5m、うねり 約2m</p>	
その他の事項	<p>本船は、船体中央部に操舵室兼キャビン、キャビン上部にフライングブリッジ、キャビンから後部甲板下にかけて機関室が配置され、主機2機及び推進器2軸を有していた。</p> <p>本船は、平成21年8月に船底洗いのために上架されて以降、マリナーナに係留保管されており、本事故発生の約1週間前に整備業者により主機の潤滑油量と目視による主機の点検が行われた。</p> <p>船長は、1か月当たり約2回の頻度で釣りやクルージングのために本船を運航しており、本事故直前は、7月1日に本船を約1時間運航していた。</p> <p>船長は、本事故前、主機の発航前点検を行っていなかった。</p> <p>本船は、沈没場所が水深約700mの海域であったことから、引き揚げられなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>なし</p> <p>本船は、江ノ島南南東沖を東進中、機関室に浸水して沈没したものと考えられる。</p> <p>本船は、機関室内で火災が発生して喫水線下に配置された海水系配管のゴム継手等が焼損し、機関室に浸水した可能性があると考えられるが、本船が引き揚げられなかったことから浸水の経過を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が江ノ島南南東沖を東進中、機関室に浸水したため、沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>	